

—IT会社でプログラミングミソグ

大学では画像工学を専攻し、研究テーマとして画像解析のプログラムを書いていた。その後、特にやりたいことがあったわけでもないが、なんとなくプログラムを書く仕事がしたいと思い、現在の会社に入社した。

特に夢や目標はなかったけれど、目の前の仕事を必死でこなしていた。ある時、お客さまから、システム導入後に「前回と同じようにきちんと対応してくれてありがとう」とのメールをいただいた。数年前に、別のシステムでも担当させていた

凛としていきる

理系女性の挑戦

意識改革で生活に広がり



だいたにお客さまからのメールだった。

前回のシステムは仕様の策定で難航し、お客さまと何度も打ち合わせを重ねて構築したものだった。数年後、このような言葉をいただけるとは思ってもお

瞬間だった。ITの世界では女性

・男性による区別はないが、今は子育てのために短時間勤務

制度を利用して仕事を続けている。

振り返ってみると、出産前と出産

後で生活は一変した。出産前は仕事

一筋だったと思う。朝から晩まで

社内のファミリーデーで電子工作する娘たち

らず、涙が出るほどうれしかった。続けてよかった、と感じた

・男性による区別はないが、今は子育てのために短時間勤務

制度を利用して仕事を続けている。

振り返ってみると、出産前と出産

後で生活は一変した。出産前は仕事

一筋だったと思う。朝から晩まで

社内のファミリーデーで電子工作する娘たち

働き、家に帰ると特に何もせずに気が付くと一日が終わっていた。自分の時間というのを意識することはあまり

なかったように思う。今は、なんとか子どもを早く寝かせようと、家に帰ると食事や入浴に猛スピードで動いている。夜はバタバタだが、そのまま子供と同じ時間に寝ると、朝早く目が覚め、自分の時間を持つことができなくなった。

以前は、いつでもできるような気がして、同じ試験を何度受けても受からない、という

だらだらした状況だった。しかし、出産後は「時間も受験料ももつたいない。1回で受からなければ」という思いで、朝から集中して勉強するようになった。おかげで、技術士

など、複数の資格を取得することができた。

家族の成長もめざましい。夫も大半の家事をこなし、子どもで

きるが増えている。洗濯や料理の手伝いをしてくれる。具体的な夢や目標はまだないけれど、アプリケーションに応募したり、

技術士のつながりで翻訳ボランティアに参加したり、と気が付くと毎日があわただしく、

新鮮に過ごせている。家族や周囲の方々に感謝の気持ちを持って、今年もいろいろなことに挑戦したい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)

(火曜日に掲載)

日立システムズ公共情報サービス事業部

公共システム本部第4システム部技師



秋山 梓 (あきやま あずさ)

〈プロフィール〉大学卒業後、04年日立情報システムズ(現日立システムズ)入社。